

錦糸町わくわく通信

2019.11
第29号

●お問合せ●
東都よみうり新聞社
TEL.03-6663-9010



彩りが灯る季節 錦糸町のクリスマスモード始動!

アルカワタズ錦糸町イルミネーション 2019-2020

【期間】

11月15日(金)午後5時～
2020年2月14日(金)午後11時

【点灯エリア】

墨田区錦糸1～3丁目の施設(アルカリスト、アルカキット、アルカセントラル、東武ホテルレバント東京、すみだトリフォニーホール)周辺



【見どころ】

錦糸町北口の東西500メートルの一带を20万個以上のLED電球が点灯。昨年よりも電飾をボリュームアップさせてより明るく華やかに展開する。



楽天地 クリスマスツリー 点灯式

【日時】11月15日(金)
午後6時

【会場】楽天地ビル
1階正面広場

【内容】錦糸町駅南口を輝かせるクリスマスツリーを設置。点灯式には、ゲストに「グリーンランド国際サンタクロース協会公認サンタクロース」のパラダイス山元さんが登場する。さらに、新世代スティールパンオーケストラ「WAIWAI STEEL BAND」のミニライブも!

【問い合わせ】錦糸町PARCO
kinshicho@parco.jp

【東武ホテルレバント東京】

サイ・イエングアン ソプラノリサイタル & 魅惑のガラディナー



サイ・イエングアン

【日時】12月1日(日)午後4時～

(カクテルレセプションでスタート)

【会場】東武ホテルレバント東京 4F大宴会場「錦」

【内容】「神が与えた美声」サイ・イエングアンの歌唱を堪能した後、フランス料理界最高の名誉のひとつ「ディシプル・オーギュスト・エスコフィエ」の称号を持つシェフによるクリスマスの特別なディナーを楽しむ。

【料金】お一人様 30,000円
(税・サービス料込み)

【問い合わせ】東武ホテルレバント東京

販売促進部セールス課TEL.03-5611-5623



※料理はイメージです

【新日本フィルハーモニー交響楽団】

宮川彬良 vs 新日本フィルハーモニー交響楽団 超! ジルベスター・コンサート2019→2020



宮川彬良(C)PACO

【日時】12月31日(火)午後3時開演

【会場】すみだトリフォニーホール

【演奏曲目】「風と共に去りぬ」、「ウィル・ロック・ユー」、「宇宙戦艦ヤマト2202」劇中音楽よりオルガン協奏曲「白色彗星」ほか

【料金】S席一般6,000円、65歳以上および墨田区在住、在勤、在学4,500円、A席4,000円、中学生以下1,000円

※ランチビュッフェ、ディナービュッフェ
セット券も販売中

【問い合わせ】新日本フィルチケットボックス TEL.03-5610-3815(日・祝休)

◎「フウガドールすみだ」プロデュース

墨田区総合体育館に「SWITCH ZERO CAFE」

墨田区総合体育館2階に9月中旬にオープンした「SWITCH ZERO CAFE」。墨田区での活動10周年を迎えたフットサルクラブ「フウガドールすみだ」がプロデュースし、運動や試合観戦後のリフレッシュ空間として多くの人に利用されている。

同店ではボリューム感のあるランチから夜にはアルコール類も提供する。特に店で出すコーヒーを隠し味に、野菜のうまみを凝縮させた「すみだカレー」(850円・税込)は練習後の選手にも人気だ。また、糖分が欲しい時は「ハニーバナナパンケーキ」(730円)などデザートもあり、様々なシーンで利用できそうだ。

飲食店経営は「フウガドールすみだ」にとって初めての挑戦だ。舵取りを任された金川武司さんは、チームのキャ



「SWITCH ZERO CAFE」を率いるキャプテン。金川さん



人気メニューの「すみだカレー」(ランチは+200円でドリンク付)

プテンとして長年活躍し、2016年に現役を退いてからもトップチームのテンションコーチや下部組織の選手育成にかかわる。「10年間体育館を使い続けたチームとして、クラブに携わるいろいろな方を幸せにしたい」という思いで新たなプロジェクトを担う。

◎ジャズフェス・すみだから

ジャズのまち・宇都宮へ「JAZZ列車」が行く!

「すみだストリートジャズフェスティバル」第10回開催を記念して、9月21日に出演者が乗



列車内で演奏が繰り上げられた

客に生演奏を披露する「JAZZ列車」が、「ジャズのまち」として知られる栃木県宇都宮市をめざして一日限定で運行した。東武鉄道が所有する4両編成の展望列車「スカイツリートレイン」を貸し切りで使用し、とうきょうスカイツリー駅から東武宇都宮駅までの往復を2組の出演者が演奏を繰り上げたほか、到着先でも地元ビッグバンドによる演奏が繰り上げられた。ツアーは好評につき来年も実施する予定だ。



錦糸町の

語り部たち

町の重鎮に聞く土地の記憶

第3回(前編)



山田 昇さん(71)

(株式会社山七食品代表取締役社長)
墨田区商店街連合会会長

※このコーナーでは昭和から平成にかけて錦糸町の変化を見てきた町の重鎮の方々に思い出を語ってもらいます。シリーズ第3弾は**名物人形焼「山田家」・山田昇さん**のお話です。

——錦糸町名物として多くの人に愛されている山田家の人形焼ですが、製造販売を始めた経緯を教えてください。

山田:創業者である先代が戦前から両国で鶏卵の卸問屋を営んでいました。錦糸町に移ったのは戦後商売を再開してからで、配達先だった浅草の菓子屋で人形焼が売られている様子を見て自分も作ってみようと思ったようです。幸い卵は沢山ありますし、製粉なども扱っていたので、質の良い材料が安く手に入る条件が揃っていました。

——ふんわりとした生地や食感や上品な甘さは販売当時から変わっていないのですか。

山田:昔のほうが甘かったですね。甘くないと材料をケチっていると言われる時代でしたから。生地は特に他店の人形焼と比べて特徴的で、奥久慈卵を使用しハチミツも入れて独特の柔らかさや風味を出しています。中身のこし餡も北海道産小豆にこだわっています。

——「本所七不思議」のイラストが描かれた包み紙も有名ですね。

山田:父が人形焼きを作るにあたって錦糸町の名物が何かないか、江戸の庶民文化を研究していた漫画家の宮尾しげさんに相談した時に「本所七不思議」伝説を教えてもらったようです。今で言うトータルデザインを宮尾さんに頼んで、人形焼の型と包装紙を作りました。以前は7話分全種類作っていましたが、現在は「津軽の太鼓」と「置いてけぼりのタヌキ」の2種類を製造販売しています。直木賞作家の宮部みゆきさんは、高校時代に千田からバス通学で店の前を通っていたそうですが、後に当店の包装紙に着想を得て「本所深川ふしぎ草紙」をお書きになり、この作品で吉川英治文学新人賞を受賞しています。

——錦糸町で商売を続けておられますが、この町にどのような思いがありますか。

山田:現在も繁華街には独特の雰囲気がありますが、昔から様々なものが混在したおもしろい町でした。一つの町に家族で買い物や食事に行ける場所があり、自己責任で楽しみに行く場所も存在しているのは雑踏の良さというか、これはこれで良いと思います。ただ、普通の人に迷惑をかけることを許してはいけません。裏通りにあるものが表に出てくることがないように守るべきものはあると感じています。最近若い人や子育て世代に人気も出てきているようで、錦糸町なりの発展をしているのがよいと思います。

(2019年9月13日取材)

